

(株)タップ

東京都江東区東陽 2-2-4
☎03-5683-5314
https://www.tap-ic.co.jp/

「スマートPMS」により 宿泊関連業務を一括管理

㈱タップは、ホテル・旅館業に特化したソリューションベンダーで、PMSやサブシステムを約1000施設に提供している。プログラミング言語J・A・V・Aをベースに開発しており、プラットフォームの変化に影響を受けにくいシステムが同社製品の強みである。アップデートサポートを受けながら10年以上の長期にわたり同社のPMSを使い続けるユーザーが多く、設計思想が統一されているため、飲食や付帯施設へのシステム拡張も容易だ。

同社が、2017年の創業30周年を機に打ち出したコンセプトのひとつが「マイホテル・マイオペレーション」。宿泊客自身の端末で、ルームアサイン・C/I・C/O滞在中の館内施設利用などを、効率化しようという提案である。トータルサービス名は「スマートPMS」で、今年から、東急リゾーツ&ステイ(東京・港区)で稼働開始した。タッププロジェクト事業本部営業課課長村山和歩氏は、次のように述べる。

「スマートPMS構想による「tapApp」(タップアプリ)の第一弾を、今年リリースいたしました。東急ステイ高輪の場合、公式サイトでの予約、お客さま自身のルームアサイン、C/Iとカードキー発行、C/Oまでをスマホで完結することができ、さらに、新型コロナウイルス対策として、カードキーメーカーとの連携で、消毒処理したカードキー発行機能も追加しました。現在ご利用可能な「tapApp」は、当社のHPに掲載し、順次サービスを追加していく予定です。当社PMSをご利用いただいているユーザーの皆さまには、初期費用・月額利用料金ともリーズナブルな価格で導入いただけると思います。PMS更新をお考えのホテル・旅館の皆さまには、総合的なご提案ができますので、お気軽にご相談ください」

セルフ・C/I・C/OからMaasにもシステム展開

スマートPMSは、「新型コロナウイルスが後からついてきた」とも言えるビジネスデザインである。「ホスピタリティサービス工学研究所」を社内組織として立ち上げ、ホスピタリティサービスの中心に「人

しかできないこと(ホスピタリティ)」と「作業」に仕分けし、「作業」をテクノロジーに置き換え効率化することを同社の事業テーマとする。新型コロナウイルス対策のキーワードである「非接触サービス」も、ホスピタリティサービスを仕分けた研究・開発の成果のひとつである。

東急ステイ高輪は宿泊主体型ホテルであるため、機能を宿泊関連に絞った導入となったが、フルサービスのシティ・リゾートホテルでも利用できる付帯施設向けサービスが用意されている。同社はソフトウェアハウスではあるが「t

apApp」を機に、必要なハードは同社より提案。エンジニアリングカンパニーとして進化を図る。旅マエ・ナカ・アトの一括管理が、宿泊施設運営にとって大きな課題となるが、スマートPMSはMaasの役割も含め、ビルオートメーションやエネルギー管理システムとの統合を目標に開発。ホテルの長期間の企業資産継承を前提としたPMSを核として、宿泊業界へ新たな提案をおこなうタップのスマートPMSの展開に注目していきたい。



宿泊予約から朝食クーポンの発行、チェックアウトなどが、tapAppで完了する。朝食会場では、リーダーでQRコードを読み取るだけで、紙の食券の発行などの必要がない。